

## 言葉が教えてくれた真実

秋田県井川町立井川義務教育学校

八年 畠山 優空

「努力は絶対に報われる」果たして、この言葉は本当なのか、それとも嘘なのか。人それぞれ考えが異なってくるだろう。私は、ずっと嘘だと思っていた。

私の母は、幼い頃から、頑張れば報われるということは何度も言い聞かせてきたが、やはり、小学校のときの私は、信じる事ができなかった。ずっと「人は努力をすると、結果というものが本当に出てくるのかな。」と心の中で疑問に思っていた。

私は、小学校三年生の頃から、スポーツ少年団のミニバスケットボールをやっている。母も昔、バスケットをやっていて、私もやってみたくて思ったことが始めたきっかけだった。初めて試合に出たのは、四年生のとき。試合でほとんどボールに触ることはなかったが、みんなでバスケットができて、とても楽しかった。

一つ上の先輩がいなかったので、五年生になると、私たちが中心のチームになった。その頃から、新しいコーチにもなり、気持ちも雰囲気もすっかり変わった。しかし、練習はとても厳しかった。私は、体力がなかったため、本当に辛かった。何度も弱音を吐いて、そして、みんなについていくこともきつかった。「自分は何をしているのか。」と考えること

も多々あった。それでも、「勝ちたい、頑張りたい」という気持ちが心の中に響いていた。

「よし、絶対に全県大会に行つてやる。」そう決めたのは、他のチームの六年生が引退したころだった。「来年は『全県』という大舞台に立つぞ。」冬の新人戦も地区優勝し、勢いに乗っていたときも東の区間だった。夏の地区大会では、決勝で負けてしまい、優勝はできなかった。ここで勝つていたら、「全県出場」を成しとげていたはずだった。この試合、明らかに私のせいで負けたのだ。

その後の練習も厳しかった。私は再び、その練習についていくことが難しくなった。それでも、これを乗り越えないと、全県に出られない。そう、ミニバスで全県に出られるチャンスは、あと一回となつてしまった。秋の地区大会で、決勝までコマを進めないと思えない。

日々努力、そして、一生懸命頑張った結果、地区大会決勝まで勝ち進んだ。決勝は負けてしまったものの、悲願の全県出場の夢が叶った。その後、全県大会では、二回戦で負けてしまい、県ベスト16という結果に終わった。

そこで、ミニバスは引退したが、また新たなステージで全県に出て、いい結果を残したいと思いつながら私は、井川義務教育学校に入学した。

去年、今まで通っていた小学校が閉校し、中学校と一緒にあって、義務教育学校になったのだ。しかし、女子バスケット部は人が少なかった。九年生（中学校三年生にあたる学年）が引退すると、私たち七年生（中学校一年生にあたる学年）だけのチームになってしまった。ミニバスと同じだ。一つ上の学年がいなくても、頑張らないといけないということだ。

そのような厳しい状態の中、私は「ある目標」を決めた。「挑戦」「限界突破」「向上」なんとなく筆

で書いてみた三つの熟語だったが、私は、あることに気付いたのだ。「挑戦」「限界突破」「向上」この順番が「成長のポイント」ではないかということだ。例えば、「体力をつけたい」という目標を立てる。そのためには、日々の努力を惜しまず、一生懸命頑張る、自分の限界を超える。すると、体力がついてきて、試合でその成果を出すことができる。

きつとそうだ。この三つの言葉のサイクルは、もしかしたらあの言葉と似ているのではないか。「努力は絶対に報われる。」人は努力すると、結果というものが本当に出てくると。母はこのように言っていた。「ミニバスするとき、日々頑張ったから、全県に出られた。」全県に出たい、だから、日々頑張った。その気持ちと努力が「成果」となっていた。

「努力は絶対に報われる」という言葉は、本当のことを言っていた。その結果を出すためには、まず、自分の目指す場所を決め、そこにたどり着くために精いっぱい努力をし、自分を超える。そして、最終的には、目指していた場所に自分が立っているということになる。これから、私もその言葉を信じて、たくさんのことに挑戦していきたい。

「努力は絶対に報われる」という言葉を信じて。